



# 自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

## 市街地広報について

### 自衛官募集相談員 諏佐 昌美

令和6年7月10日(水) 自衛隊群馬地方協力本部高崎地域事務所長(2等陸尉 宮本 直樹)は、広報官及び自衛官募集相談員萩原さんと市街地広報を実施した。当日、「おはようございます。」と目を合わせて笑顔で声掛けを実施し、目をそらす人、うつむいてしまう人、笑顔で挨拶をしてくれる人、電車の時間がギリギリで急ぎ足に改札に向かう人、様々ではあったが、リーフレットを多くの方々に受け取って頂く事が出来ました。

私は元自衛官ですが、高校生時代には、このような広報活動に出会うことがなく、自衛官という職業は自分自身で調べて受験しました。当時、私の母校では女性自衛官(当時婦人自衛官)を受験する生徒がおらず、進路担当の先生にはとても難しい表情をされました。現在は、防衛省自衛隊地方協力本部による学校への広報活動などもあり、自衛隊への理解が深まっていると思います。また、様々な受験方法や職種もなかったため、とても羨ましいと感じています。自衛隊地方協力本部による地域イベントへの参加や、このような市街地広報活動により、職業の選択肢を広げる情報が得られるということは、今まで考えていた将来の自分とは違った姿を想像することも出来るものだと思います。

私自身が自衛隊で得た宝物は、同期の絆、かけがえない人と人との繋がりで、災害時には安否確認・同期会の案内・近況報告などをしていきます。自衛官になって良かったと心から思います。自衛官募集相談員としてそのような事も伝えていきたいです。

私たちが自衛官募集相談員は、志願者への情報提供をはじめ、自衛隊地方協力本部が実施する募集のための様々な広報活動に協力させて頂いています。日々厳しい状況が続くにつれ、日本を巡る安全保障環境や本年はじめに発生した能登半島地震など、自衛隊の役割及び重要性は増すばかりです。その中で私たちが自衛官募集相談員は、自衛隊地方協力本部と協力・連携して、自衛隊への理解促進を図り、平和な国づくりに向けて共に努力していきたいと思えます。



諏佐相談員から高校生に対してリーフレットを配布



萩原相談員から高校生に対してリーフレット配布



令和6年7月10日(水) 安中駅で自衛隊募集相談員2名と市街地広報を実施しました。暑い中でしたが笑顔で絶やさず一般広報を実施して頂き、ありがとうございました。



## 防衛大学校教授による模擬授業

### 2等陸尉 田村 伸

自衛隊群馬地方協力本部(本部長 防衛事務官 小久保 勝之)は、令和6年8月24日、昌賢学園まえばしホールにおいて参加者18名(保護者等含む)に対して、防衛大学校教授による防衛大学校概要説明及び模擬授業を実施した。本事業は防衛大学校が主導となり、各地本に教授等を派遣し、防衛大学校の概要説明、模擬授業等を実施することにより、大学校の魅力を知り、理解を深め、志願者の増加を図ることを目的としている。

今回、当地本へご支援いただいた小川健一教授(統率・戦史教育室所属)は防衛大学校卒業後、陸上自衛官として勤務し、現在は文官教官として教鞭を振るう経験豊富な教授である。講義内容については防衛大学校概要説明、模擬授業、質疑応答という流れで実施された。50分間、学生隊の編成や学生生活、また授業内容や校友会(部活動)の活動、入試制度について写真等を交えて丁寧にわかりやすく説明をしていただいた。特に熱を持って述べられていたのは校友会についてである。学生同士、また先輩後輩の絆はこの校友会を通して育まれ、一生の友を得る貴重な大切な時間であると強く述べられていた。ちなみに教授は学生時分、ボクシング部に所属していたとのことである。

そして模擬授業については、テーマ「防衛学ってなに」と題して、実際に防衛大学校一年生に対する同様の内容であり、防衛学入門編の授業を約一時間実施していただいた。冒頭教授から参加者に対して今一番気になるニュー又は何ですか?と問いかけられ、参加者からは現在起きている世界の紛争や日本周辺の国際情勢問題が多く挙げられた。平和を保つために大切なことは外交力、抑止力である、と教授は述べられた。その中で特に抑止力はまさに我々自衛隊の存在意義である。わかつてはいたものの、教授による中身が濃い防衛学を通じて、我が国の平和、世界の平和に必要な力であると改めて認識した。

小川教授のユーモアで熱のある講義に約二時間半という時間もあっという間に流れ、参加者の皆さんにとっても集中した有意義な講義となった。加者の声を広報官から通じて聞いたが、防衛大学校の理解を深められ絶対に入校したい、といった意見をいただくなど、大変好評を得たことを実感した。小川教授には改めて感謝を申し上げたい。

今後とも自衛隊群馬地方協力本部は、あらゆる機会を捉え、国民の皆さんに防衛省・自衛隊を正しく理解してもらえよう日々活動していきたい。

